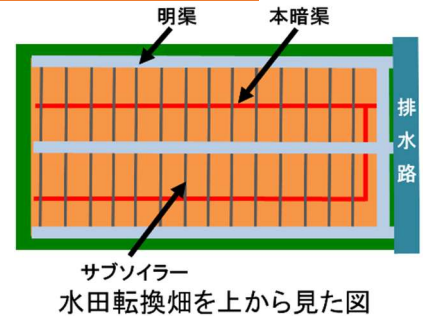


基本技術の徹底で気候変動に負けない大豆づくりを！ 排水対策・土づくりは必須！

1 排水対策は大豆づくりの基本！

- 大豆は湿害に弱く、特に播種から生育初期の湿害は生育が抑制され、収量が低下します。湿害回避のため、**排水対策を徹底**しましょう。
- 耕起前に、圃場周辺に明渠を掘り、確実に排水路につながります。
排水路につながっていないと明渠の効果は期待できません。
- 水田に隣接している圃場では、圃場周囲の明渠は特に深く掘りましょう。
(目標：深さ40cm以上)
- 水田転換畑では、明渠だけでなく心土破砕(サブソイラー等)や弾丸暗渠等を組み合わせましょう。
- 播種後は、圃場の中央にも深さ30cm程度の溝を掘る等、排水対策を万全にしましょう。
- 排水対策は、**生育期間中の大雨時の排水や干ばつ時のかん水にも効果を発揮します。**

排水対策の例



2 有機物や石灰資材等で積極的な土づくり

- 子実生産の90%以上を地力と根粒菌由来の窒素に依存**しています。地力や根粒菌活性が低下すると、稔実莢数や百粒重の減少により収量の低下につながります。**堆肥等の有機物を積極的に投入し**地力の向上を図りましょう。
- 大豆の生育、根粒菌活性の最適pHは6.0~6.5**です。土壌pHを確認し、石灰資材で酸度矯正を行いましょう。

【施用の目安】

有機物(現物量)	牛糞堆肥 1~2t/10a または 発酵鶏糞 75~100 kg/10a		
石灰資材(現物量)	苦土石灰 100 kg/10a または 炭カル 120 kg/10a		
基肥(成分量)	窒素 2~3 kg/10a	リン酸 6~8 kg/10a	カリ 10~12 kg/10a

3 播種適期は5月20日~6月10日！

- 初期生育を確保するためには、適期に播種することが第一**です。
- 種子予措(忌避、殺菌、殺虫)を行い、播種量は4~6 kg/10aを目安にしましょう。
- 播種時期が遅れる場合は、生育不足を補うため、株間を狭めて播種量を増やしましょう。
- 安定した出芽を確保するには、砕土率を高め(1cm以下の土塊の割合70%)、播種深度が一定(3cm程度)となるよう調整します。
- 干ばつ時には、やや深めの播種深度としましょう。



4 種子処理剤で病害虫防除

○例年、**ネキリムシ類**の発生が多い圃場では、登録がある薬剤を使用しましょう。



【種子処理剤の適用病害虫、防除方法】

薬剤名	適用病害虫	防除方法
クルーザーMAXX	紫斑病、黒根腐病、莖疫病、 ネキリムシ類 、タネバエ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、(ハトによる種子食害忌避)	乾燥種子 1 kg 当たり 原液 8mℓ 塗沫処理
クルーザーFS30	ネキリムシ類 、タネバエ、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ	乾燥種子 1 kg 当たり 原液 6mℓ 塗沫処理
キヒゲンR-2フロアブル	紫斑病、タネバエ	乾燥種子 1 kg 当たり 原液 20mℓ 塗沫処理

※クルーザーFS30 とキヒゲン剤を併用する場合は、クルーザーFS30 を処理後、よく乾燥させてからキヒゲン剤を処理する。

5 効果的な雑草防除

○雑草防除は、適期播種による生育量の確保、除草剤の体系処理、適期中耕培土が重要です。

【除草剤をしっかりと効かせるためのポイント】

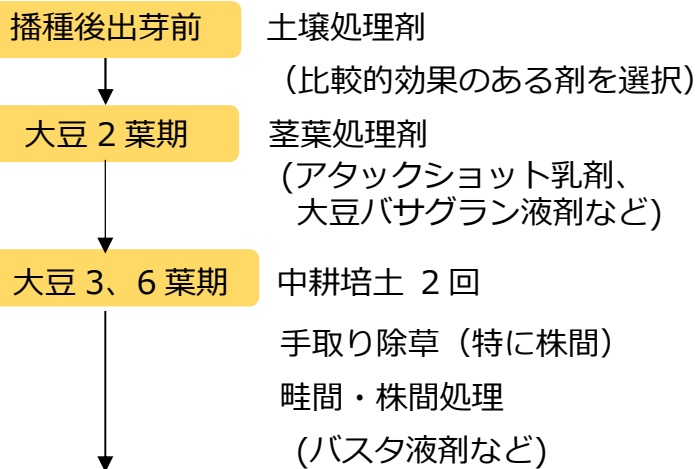
- ① **碎土率を高める** ② **適度な土壤水分を確保する** ③ **散布時期を逃さない**

◎帰化アサガオ類の防除は早期発見と早期対策が決め手◎

【帰化アサガオ類防除のポイント】 **早期対策で拡大させないことが重要**です。

- ① 大豆を健全に生育させ、雑草との競合力を高めることが基本。
- ② つるになる前に防除。播種後2～3週間が勝負！
- ③ 大豆の草丈が条間と同じ長さになるまで、概ね2週間ごとに防除（除草剤・中耕培土）。
- ④ 畦畔からの侵入を防止する。

【防除体系】 **初期除草・体系処理が決め手！**



帰化アサガオ類の種子をつくらせない



マルバルコウ



マメアサガオ



アメリカアサガオ



マルバアサガオ

春季農作業事故防止啓発運動 展開中！ トラクターの事故に要注意！

- 安全確認と予防対策（ブレーキ連結等）で公道でのトラクターによる事故を防ぎましょう。
- 熱中症にも要注意**。こまめな休憩と水分補給。ゆとりをもった作業を心掛けましょう。